

富田孝好さん

日本労協連センター事業団
東北事業本部・本部長



みなさんこんにちは、最初に労働者協同組合連合会の理事長が開会の挨拶をしましたが、私も同じ労協連のメンバーです。今日の『まちづくり』『しごとおこし』のシンポジウム仙台集会を準備しました実質的な責任者が私です。責任者ということですのでパネラーとしても出させていただきました。どうぞよろしくをお願いします。

お隣の岩瀬さんがパネリストとして一番最後、実は2週間前に決まりました。2週間前からやおらいろいろなところを回りまして参加のお誘いをするということで、今日の私の関心事はいったい今日何人来るのかということでした。後で人数の集計をしますが総勢100人の方においでいただき、2週間という短期間の準備では成功だったのかなと思っています。

私の話なんですが、「私たち労働者協同組合とは」ということです。労働者協同組合とはそこで働く組合員がみなで資金を出し合うことで組織を協同で所有し事業経営、組織運営と一緒に参加し、よい仕事や仕事おこしに携わる組織であります。出資、経営、一緒になって働くということを経営させ、みんなの力で作っていくことを、私たちが作り出した言葉で「協同労働」と呼んでおり、この「協同労働の協同組合」をまさにこれから世に広げたい、そのためには私たちが、かれこれ20数年の悲願として考えてきた法制化をぜひこの時期に実現させたいという願い

を込めまして今日の集会を持ちました。

私たち労働者協同組合は今どういう現状にあるのかということを経営・目的に付け加えてお話しします。東北には労働者協同組合の組織は3単協、事業所が13ヶ所になっています。日本労働者協同組合連合会では高齢者の協同組合も一緒になって活動しています。高齢者生活協同組合の方は東北で5単協、準備会が1つでお隣の福島が今年ぜひ完成しようと準備しています。全部あわせて事業規模が15億、構成する組合員は日本労働者協同組合・高齢者生活協同組合あわせて約3000名という現状です。中期計画ということで3年から5年を見通してどういう目標を立てていくかといいますと、苦心惨憺していますが15億から25億、30億と労働者協同組合・高齢者生活協同組合の組織をぜひ大きくしていきたいんだと私たちは考えています。

私の話の大きな3番目としては、今日そして明日からの課題と展望ということ。仙台は東北の中心地ということもありますから、さまざまな行政の関係機関が集中しています。実は私がこの集会を準備する過程で昨年の秋くらいから、経済産業省の東北経済局ですとか宮城県、あるいは仙台市のようなところと意識的に話し合いをさせていただきました。多様な話になったんですが、昨年の十一月に仙台市長が河北新報の論壇に「これからの21世紀仙台市はどのような方向で何をすべきか」ということを意見表明されていました。それを読んでみますと、ほとんど私たちが考えている考えとほとんど、いやまったく一緒ではないかと思えるような内容だったわけです。それをみるにつけ私たちの考えを実践に移す時期なんだと実感して先ほどお話ししたような国・県・市合わせて話し

合いをしてみました。その結果、それぞれのレベルがあるんですが、今の経済状況を考えた上で私たちの言葉で言えば「仕事おこし」ですね、雇用創造・新しい産業振興、仕事の場をどうするかということがそれぞれ各機関共通した課題であるということがわかりました。その共通した課題の中で糸口は何かと、それぞれ第一次産業の分野でどういうことで解決の糸口を見つけるのか、あるいは情報化時代に対応する部分でどういう糸口を見つけるのか、あるいは環境、あるいは福祉ということで解決の糸口を探していると。私たち労働者協同組合といえばその中の、全部に近いぐらいの何らかの関わる実践を始めているということで、もっと積極的に私たちの方から提案していきなり実践していきなりということをやらなければいけない、非常に強く感じたということがありました。

今、労働者協同組合としては「地域福祉事業所」というものを全国に展開して、これをコミュニティの再生に結び付けていくということを非常に意識的に取り組んでいます。これひとつ取っても雇用創出・産業振興ということにストレートに直結する実践であるということです。これをぜひとも早急に東北・宮城・仙台各地に持ち込みたいと考えている真っ最中ですし、実践に進み始めた段階です。これが宮城県の事例から考える展望であります。

もうひとつの展望としては、こうしたところから更には「街づくり」への関与と寄与を同時並行的に進めたいと思っています。そうした意識の中からパネリストの2番手で荒町商店街の出雲洋一さんをお呼びしました。出雲さんも中心市街地の活性化に積極的に参加すると話されていましたが、私たちもそれを荒町の振興組合の皆さんとご一緒にできない

かと、可能性はないのかと、あるいはどういふことができるのかとということで、今宮城県の高齢者生活協同組合の方では具体的なプラン作りを検討している真っ最中です。ほぼ原案はまとまってきているんですが、荒町の振興組合の皆さんにもそれをお出しして一緒にこんなことができるんだ、こんなことをやれるんだということを検討しながら、今お話ししたまちづくりへの関与と寄与の同時進行ということを荒町の商店街を舞台にしてここ地元仙台市でやっていきたいと思っている次第です。

そうした実践、私たちの労働者協同組合の理念・目的あるいは私たちの組織の到達点、今日から明日からの課題と展望ということを受けながら、「では何でこんなことをやるの?」「何を考えてやっているんですか?」ということについて最後にお話します。竹内さんから岩瀬さんまでがお話をされた内容をも含めまして、私たち労働者協同組合は、地域の再生と労働の人間化というテーマを、地域の隅々に行き渡らせたいという大きな理念を持っております。それを地域の皆さんと一緒にぜひやっていきたいんだということなのです。これを労働者協同組合の言葉で言えば、「新しい公共性の創造」であり「市民参加の21世紀の時代」ということになるのです、以上で私の発言とさせていただきます。